

- ・コシヒカリの2回目の穂肥時期が迫っています。確実に穂肥を施用してください。
- ・柏崎管内でも、畦畔での斑点米カメムシ類の発生や葉いもちの発生が確認されています。ほ場を確認し、病害虫の多発生が予想される場合は防除を徹底してください。

1 生育状況（7/10現在）

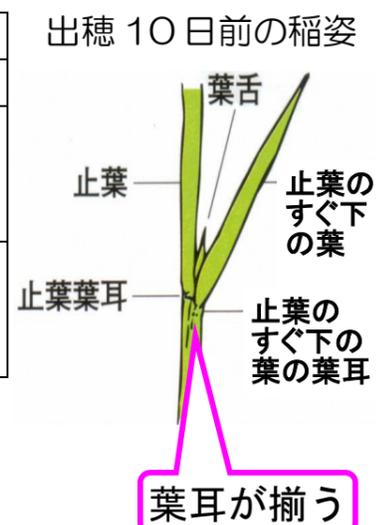
品種	草丈 (cm)		茎数 (本/m ²)		葉数 (葉)		葉色 (SPAD)	
	本年	指標値比 (指標値)	本年	指標値比 (指標値)	本年	指標値差 (指標値)	本年	指標値差 (指標値)
コシヒカリ	71	109% (65)	419	93% (450)	11.0	0.3 (10.7)	33.4	-1.6 (35.0)
新之助	62	115% (54)	398	69% (580)	11.3	0.3 (11.0)	34.3	-1.7 (36.0)

コシヒカリ：草丈「やや長い」 茎数「やや少」 葉数「並」 葉色「やや淡」
 新之助：草丈「長い」 茎数「少」 葉数「並」 葉色「やや淡」

2 出穂予想と2回目穂肥量・時期の目安

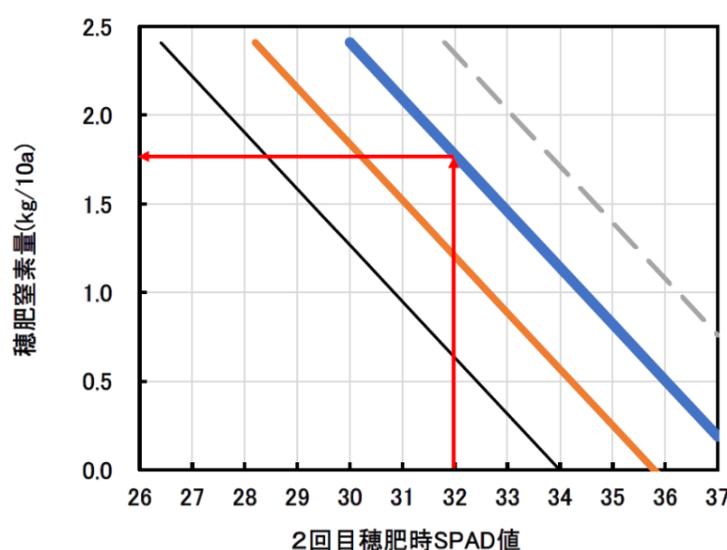
○2回目の穂肥は、後期栄養の維持のため、**出穂 10 日前に確実に施用**してください。

品種	基準田植日	予想出穂期	2回目穂肥の目安 (例)	
			施用時期	10a 当たり施用資材・量
コシヒカリ	5月10日	8月3日	7月24日頃 (出穂10日前)	越後の輝き有機50 穂肥 8~12 kg (窒素量 1.0~1.5 kg/10a 相当)
新之助	5月13日	8月10日	7月31日頃 (出穂10日前)	越後の輝き有機50 穂肥 4~12 kg (窒素量 0.5~1.5kg/10a 相当)



※予想出穂期は、今後の気象条件により前後します。

※穂肥の効果をもとめるため、かん水し土壌が十分湿った状態で穂肥を施用しましょう。



- 出穂期の目標SPAD値
- 32
 - 33
 - 34
 - 35
- 例えば
- ・出穂期の目標SPAD値：34
 - ・2回目の穂肥時のSPAD値：32
- 穂肥窒素：約1.8kg/10a
- ① コシヒカリの2回目穂肥時期（出穂 10 日前）の SPAD 値を測定する
 - ② SPAD 値を左図の横軸「2回目穂肥時 SPAD 値」にあてはめる
 - ③ 「2回目穂肥時 SPAD 値」の縦線が「出穂期の目標 SPAD 値 34」の線にぶつかる位置が2回目の穂肥窒素量となる。

図 コシヒカリの2回目穂肥量の目安（新潟県農業総合研究所 R5 年度研究速報より抜粋）

【基肥一発】

出穂期の葉色が SPAD 値で 33（カラスケール単葉 4.3）を下回ることが予想される場合には、**出穂の 10 日前までに窒素成分量 1.0 kg/10a** を目安として追加施用してください。

3 コシヒカリの出穂期直前の追加穂肥の判断と対応

（今後も引き続き、高温が予想されています！）

◎2 回目穂肥を施用したが葉色が上がらない場合

出穂期3日前（走り穂が見られる頃）の葉色が SPAD 値で 31 以下（カラスケールで単葉 4.0 以下）のときは早急に窒素成分量で 1.0 kg/10a を上限に、化成肥料を追加施用してください。

4 病害虫対策

《いもち病》

- 柏崎管内では断続的にいもち病の感染好適条件が発現しており、多くの品種で病斑が確認されています。(管内初発生確認：7月1日、品種：新之助)
- コシヒカリ BL 以外の品種で病斑が確認された場合は、速やかに防除を実施してください。
- 新之助やもち品種など、いもち病に弱い品種は、予防防除を基本とし、穂いもちの発生を抑えましょう。

《紋枯病》

- 紋枯病は前年に多発生したほ場で発生しやすい病気です。高温・多湿条件で発病が助長され枯れ上がりによる未熟粒の発生や倒伏により品質・収量に大きな影響を及ぼします。病斑が広範囲に確認された場合は、早急に薬剤防除を行いましょう。

《斑点米カメムシ》

- 斑点米カメムシは高温下で多発します。昨年はカメムシによる被害粒が極早生～中生品種で多発生しました。
- イネ科雑草の種子はカメムシの餌であり、生息・繁殖場所となります。雑草が結実しない間隔での畦畔の除草を徹底してください。
- カメムシの被害はアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメが主体ですが、大型のクモヘリカメムシ等の発生が多い場合は、1回目の7～10日後に追加薬剤防除も検討してください。

★アカヒゲホソミドリカスミカメ



★アカスジカスミカメ



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ



5 出穂前後の水管理

- 穂ばらみ期～登熟初中期は最も水を必要とする時期のため、こまめな水管理で土壌水分を維持し、稲体活力を保ってください。
- 出穂後は、登熟期の品質低下を防ぐため田面の水が自然になくなり、溝や足跡に残っている水がなくなる前に再びかん水する飽水管理を実施してください。
- 異常高温時や、フェーンが予想される際には速やかに入水し、急激な乾燥による障害の発生防止に努めてください。
フェーン通過後は、ほ場内の水が温まっているので、できるだけ水の更新を行い、湛水状態から飽水管理へ移行しましょう。
- 玄米の厚みが決まるのは出穂 25 日後頃とされ、それまでは十分な水が必要です。完全落水は、「出穂期から 25 日」以降にしましょう。

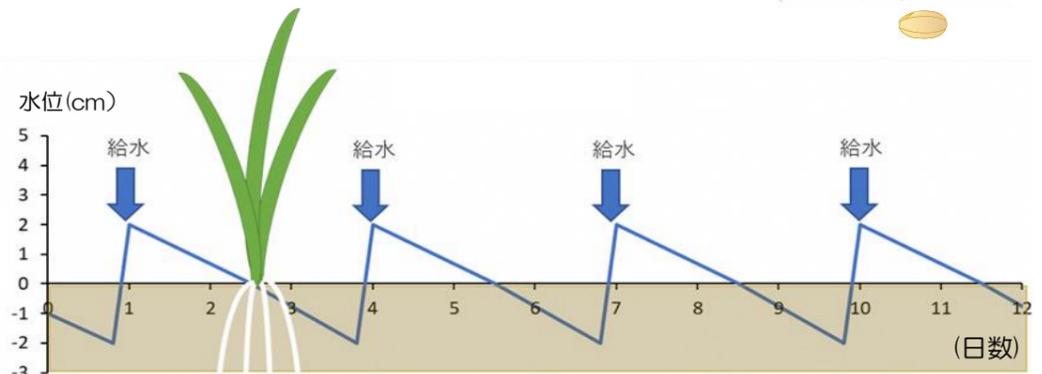


図 飽水管理のイメージ

◎ SNS・メールで情報提供しています！

＜JA えちご中越柏崎地域営農情報＞



アカウント ID：@882abimy



＜柏崎農業普及指導センター 稲作メールマガジン＞



↑詳細はこちらから

ngt111840@pref.niigata.lg.jp

こちらのアドレスに、
①件名は「稲作メールマガジン申込」
②本文に「氏名」、「電話番号」を記入の上、送信してください。

【お問い合わせ先】

全地区共通

柏崎農業普及指導センター 21-6263
JA えちご中越柏崎地区センター
農政企画課 21-0220

東部田尻・西中通・高柳

かしわざき営農センター 35-8188

南部高田・中央柏崎地区

かしわざき南部営農センター 41-6087

刈羽・西山地区

かしわざき北部営農センター 45-2258

柏崎地域農業振興協議会

柏崎市、刈羽村、新潟県農業共済組合中越支所、えちご中越農業協同組合、柏崎土地改良区
柏崎農業普及指導センター（新潟県柏崎地域振興局農業振興部）